

10 日間 不在時、プリンターに水を供給する方法

留目 剛(MPUF)、三原 祐治(MPUF)、青木 和茂(MPUF)、熱田 達彦(MPUF)、
志方 敬(MPUF)、中山 憲卓(MPUF)、長井 哲也(MPUF)、牧野 泰文(MPUF)

概要

2013 年 7 月、MPUF に研究会「だれでもできる問題解決研究会」(略称：解決研)が発足した。研究会「解決研」は、「企業で USIT/TRIZ の普及・活用に取り組むメンバーが中心となり、解決手段を持たない MPUF メンバーに有効手段である USIT/TRIZ を知らしめ、使ってもらえるようにする。そのための事例(失敗や成功の事例)の収集、方法の改良を議論する」ことを目的にしている。

さて、研究会の活動を前に、メンバーのスキルに差があることが分かった。そこで、このスキル差の解消と手法再認識を目的に、有志による USIT 勉強会を開催した。

この勉強会では「10 日間 不在時、プリンターに水を供給する方法」を題材とした。

本発表は、この USIT 勉強会 (USIT-club) の結果報告である。加えて、勉強会を通じて得られた上位 4 種類のアイデア、内 1 種類の試作品、3 つの反省とポイント をご紹介する。

内容説明

TRIZ や USIT は、問題解決のための強力な手段である。しかし、日本国内の企業で、日常的に、問題解決手法として活用されている と言いはし難い。

研究会「解決研」には、企業で TRIZ や USIT の普及・活用に取り組むメンバーが参加している。

「解決研」の目的は、自分が所属する企業のみならず、更に広く、USIT/TRIZ を知らしめ、使ってもらい、日常的問題解決手法として活用される状態を目指し、ひいては、日本の技術革新力の向上に寄与することである。

そのためには、事例(失敗や成功の事例)の収集、方法の改良を議論することが必要である。過去の問題解決成功事例は、現在問題を抱えている人に、自分の問題解決方法として活用出来ないか 興味を誘起する。過去の失敗事例からは、反省点と改善点を明確化し、自らの再発防止策と、これから活用する人への糧とする。方法の改良では、更なる使い易さの向上や、使い易くするための付随ツールを検討し、方法を強化する。これらの手段によって、「認知」と「活用」と「普及」の向上を目指している。

さて、「解決研」での活動内容や方法の検討の途中で、メンバーのスキルに差があることが分かった。

そこで、「解決研」の有志が別途集まって、USIT 勉強会 (USIT-club) を開催した。この勉強会は 2013 年 7 月より 12 月まで、月 1 回土曜日を活用し、6.5 時間×5 回

で実施した。10 月には、勉強会予定日に台風が上陸し、急遽開催中止となるハプニングもあった。

勉強会では、メンバーから提案された「10 日間 不在時、プリンターに水を供給する方法」を課題として、実践的にアイデアを発想、発散、収束させ、具体的な課題解決策を導き、手法の再認識を行った。

総アイデア数は 73 個であったが、実現性の高いアイデアも発案され、実際に実現が可能か、試作品を作って確認も行った。

本報告では、USIT のステップと、ステップでの概略結果を紹介、この程度の時間の勉強会でも、十分に、学習の成果が得られることをお知らせしたい。

そして、このような勉強会の啓蒙に加えて、勉強会の結果として得られた上位 4 種類のアイデア、1 種類の試作品をご紹介したい。

更に、今回の勉強会を通じて、初心者が陥りやすい 3 つの反省とポイントをご紹介する。

勉強会の進め方や内容、その他の学習方法、勉強会で発想したアイデアと試作品についてのご意見、新しいアイデアや改良アイデア等、それらをポスター会場で意見交換出来ることを楽しみにしている。

なお、本発表は、長井哲也氏発表の「原因探索展開 (DeSC) ～問題の原因を網羅する～」と関連している。

本発表の聴講後、長井氏の発表も聴講されることを、是非お勧めしたい。